

「2つの巨星の出会いがもたらす至福の時間」

2026年3月に80歳を迎えたユベール・スダーンは、1997年に東京交響楽団を初めて指揮する機会を得ました。その幸福な出会いが、2004年から2014年までの同団の音楽監督を務めるという道を開きました。その間、数々の業績を残したことから、退任後も桂冠指揮者として毎年共演を重ね、現在も深い信頼関係を築いています。その絆が、この演奏会へと結実しました。

一方、ソリストとして登場する前橋汀子は、スダーン以上のキャリアを誇り、本公演時には83歳を迎えていますが、「孤高のヴァイオリニスト」と称されるにふさわしい表現力と存在感で、今なお進化を続けています。

意外にもこれまで一度も共演の機会がなかった二人が、本公演で待望の初共演を果たします。長年にわたり音楽を極めてきた二人が初めて同じ舞台に立つこの瞬間は、私たちにとって忘れがたいクリスマスプレゼントとなることでしょう。



前橋汀子 [ヴァイオリン]

Teiko Maehashi, Violin

© 岡本隆史

日本を代表する国際的ヴァイオリニストとして、その優雅さと円熟味に溢れる演奏で、多くの聴衆を魅了してやまない。5歳から小野アンナにヴァイオリンを学び、その後、桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校で斎藤秀雄、ジャンヌ・イスナールに師事。17歳で旧ソ連国立レニングラード音楽院（現サンクトペテルブルク音楽院）日本人初の留学生に選ばれ、ミハイル・ヴァイマンのもとで学んだ。その後、ニューヨーク・ジュリアード音楽院でロバート・マン、ドロシー・ディレイ、スイスでヨーゼフ・シゲティ、ナタン・ミルシテインの薫陶を受けた。

これまでにベルリン・フィル、ロイヤル・フィル、フランス国立管などの名楽団、メータ、ロストロポーヴィチ、小澤征爾など世界の一線で活躍するアーティストとの共演を重ねている。

近年、小品を中心とした親しみやすいプログラムによるリサイタルを全国各地で展開する一方、J.S. バッハ「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ」や、ベートーヴェン、そしてブラームスの「ヴァイオリン・ソナタ」などにも意欲的に取り組んでいる。ピアニストのヴァハン・マルディロシアンと、ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ全集」、ブラームス「ヴァイオリン・ソナタ全集」のCDがリリースされた。

また、室内楽にも積極的に活動しており、ベートーヴェンの弦楽四重奏や、近年では今井信子（ヴィオラ）、横坂源（チェロ）らとの弦楽トリオ等の公演も行っている。

著書「私のヴァイオリン 前橋汀子回想録」が早川書房より、『ヴァイオリニストの第五楽章』が日本経済新聞出版より出版されている。

これまでに日本芸術院賞、第37回エクスンモービル（現・ENEOS 音楽賞）音楽賞洋楽部門本賞受賞。紫綬褒章、旭日小綬章を受章。使用楽器は1866年製ストラディヴァリウス。



ユベール・スダーン [指揮]

Hubert Soudant, Conductor

© N.Ikegami

1946年、オランダ・マーストリヒト生まれ。

ブザンソン国際指揮者コンクール最高位、カラヤン国際指揮者コンクール第2位、グールド・カンテルリ国際コンクール優勝に輝いている。これまでに、ベルリン・フィル、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、ハンブルク放送響、フランクフルト放送響、ドレスデン・シュターツカペレ、ミラノ・スカラ座歌劇場管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア管など主要なオーケストラと共演し、オペラ分野でもバスター・オペラや、パルマ、パレルモ、ボローニャなどのオペラハウスで精力的に活動している。2004年7月、ザルツブルク市名誉市民およびオーストリア・ザルツブルク州ゴールデン勲章を授与された。

メルボルン交響楽団首席客演指揮者、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルト管弦楽団の首席指揮者、東京交響楽団音楽監督などを歴任。現在、東京交響楽団桂冠指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢の名誉アーティスト・アドヴァイザーを務めている。東京交響楽団音楽監督在任中には数々の業績を残したが、シュベルト・チクルスでは「2008年もっとも充実した果実」「信じられないほど絶妙なバランスがとれた演奏」と絶賛され、2006年5、6月新国立劇場で指揮したモーツァルトの歌劇「皇帝ティトの慈悲」では年間ベスト・オペラ公演に選ばれた。また近年では、大阪フィルハーモニー交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、札幌交響楽団、広島交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団などとも友好な関係を築いている。国際的な音楽祭としては、ブラハの春、リンツ・ブルックナー、ザルツブルク・モーツァルト週間、ウィーン芸術週間、ニューヨークのモーストリー・モーツァルトなどに多数招かれている。レコーディングにおいても、東京交響楽団とのCDのほか多数をリリースした。



酸郁たるロマンの薫り… 真髄を捉えた前橋汀子のブラームス。

前橋汀子 | ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ全集

ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ第1番ト長調 作品78「雨の歌」

ヴァイオリン・ソナタ第2番イ長調 作品100

ヴァイオリン・ソナタ第3番ニ短調 作品108

〔演奏〕 前橋汀子(ヴァイオリン)、ヴァハン・マルディロシアン(ピアノ) 〔録音〕 2025年7月14-18日 杜のホールはしもと、相模原

2022年に演奏家活動60周年、2023年には傘寿を迎えたヴァイオリニスト、前橋汀子は、2025年2月にベートーヴェンの10曲のヴァイオリン・ソナタ全集を発売して大きな話題を提供しましたが、驚くべきことにわずか1年のインターバルで、今度はベートーヴェンに続く「ドイツ三大B」の作曲家、ヨハネス・ブラームスによる3曲のヴァイオリン・ソナタ全集を世に問います。「雨の歌」の副題を持つ第1番、ロマンティックで愛らしい明るさを持つ第2番、慈いを帯びた激しさを持つ第3番……ブラームスの珠玉の室内楽作品を、前橋は前作でも息の合ったところを聞かせてくれたアルメニア出身のヴァハン・マルディロシアンとともに心を込めて歌い上げます。

Sony Music Japan International



絶賛発売中

定価 ¥3,300

(税抜価格 ¥3,000)

ハイブリッドディスク

● SICC 19090

特価 DSD & 192kHz/24bit

Audio ハイレス配信中

【チケットをご購入いただくにあたっての注意事項】

※やむを得ない事情により出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。

※公演中止の場合を除き、ご購入いただきましたチケットの払戻しはできません。

※未就学児童の入場はお断り致します。

※営利目的でのチケット転売は固くお断りいたします。